

「ラグビーW杯2019日本大会を迎えて」

事務局 原田正樹

1. はじめに

2019年9月20日!! いよいよラグビーW杯日本大会が開幕します。

前回2015イングランド大会では、過去のW杯で1勝しかできなかった日本代表が、終了間際のトライで強豪国の南アフリカに大逆転勝利を取めた「世紀の大番狂わせ」をはじめとし、歴史的な3勝を挙げて大いに盛り上がりました。

今大会は日本での開催でもあり、日本代表の前回以上の成績及び大会の盛り上がりを期待しています。一人でも多くの方に注目していただき、日本代表を応援してほしいと思い、寄稿させていただきました。



【W杯2015 南ア戦勝利後の日本代表】

出典：www.bing.com

2. ラグビーと私

まずは私自身のラグビー経験について、説明させていただきます。ラグビーの試合を初めて見たのは(但しテレビですが)、中学3年生の冬です。第59回(昭和55年)高校ラグビー全国大会決勝戦の国学院久我山(前年優勝)VS目黒(東京第1)の試合で、前半14対0と国学院久我山ペースだったのですが、後半徐々に目黒が追い上げ、終了間際のトライで同点、ゴールも成功し、目黒が大逆転優勝を遂げるという劇的なものでした。この1試合で私はラグビーに魅了されてしまいました。それまでは別の高校を目指していましたが、地元でラグビー部が強かった栃木県立佐野高校へ急遽進路を変更することにしました。部活は週6日(日曜日は休養日で試合の場合は月曜に振替)で、放課後2時間の全体練習、その後自主トレを3時間程度、家に帰るのは夜10時頃でした。但し、当時の監督の方針は、スパルタや根性論よりも、戦術や練習方法・選手の自主性を重んじたものでした。上級生も優しい方ばかりで、上下関係もあまり厳しくなく、時代を先取りしていた監督や先輩方を尊敬しています。私のポジションはフッカー(フォワード：背番号2)で、2年生の冬の新人戦からレギュラーになることができました。

当時の佐野高校ラグビー部の成績について紹介します。1年生の時、栃木県で国体が開催されたことや、全国大会が第60回記念大会で県1校出場できたことから(当時は隣県と出場決定戦があり、栃木県優勝校は茨城県優勝校と戦っていました)、強化合宿等における県のサポートも厚く、強さのレベルも年々上がっていきました。その結果、私が在籍した3年間は連続して全国大会(花園)に出場しています。ちなみに第60回の全国大会は、数年後に大ヒットしたドラマの「スクール☆ウォーズ」のモデルとなった「伏見工業(京都)」が初優勝した大会です。私が選手として出場した3年生の時の第62回(昭和58年)全

国大会の結果は以下の通りです。

【1回戦】 佐野(栃木) 22 - 0 報徳学園(兵庫)

【2回戦】 佐野(栃木) 4 - 19 秋田工業(秋田：A第5シード)

高校最後の試合は、シード校であり最終的にはベスト4に入った強豪の秋田工業を相手に完敗でしたが、終了間際に相手ゴール前でのスクラムを押し切り、スクラムトライをすることができました。チーム一丸となって奪ったトライです。ノーサイドの笛が鳴り響いた時には、自然と涙が溢れてきました。このラグビー部での3年間の経験は何事にも代えがたい一生の宝物であり、精神的にも大きく成長できたと思います。尚、同期でキャプテンだったスタンドオフ(バックス:背番号10)の石井勝尉君は、早稲田大学に進学し、ラグビー日本代表としても活躍しました。現在は母校の佐野高校の体育教師であり、ラグビー部の監督です。私は慶應義塾大学に進学しました。



【佐野(緑・黄の縞) vs 秋田工業(紺・白の縞) 終了間際のスクラムトライ】

出典:「田村佳宥先生ご退職記念パーティープレゼンテーション」より

大学では體育會蹴球部(ラグビー部)には入らず、佐野高校の尊敬する1学年上の先輩が在籍していた体育会所属団体の慶應JSKSラグビークラブでラグビーを続けました。今年創立90周年を迎えた学生クラブチームとしては最古の伝統あるクラブです。私は1年生からレギュラーとなり新人戦を含め4年間全ての公式戦に出場することができました。これも高校時代の走り込みや筋トレの成果で、大きな怪我がなかったことが要因です。

このクラブでは辛い思い出もあります。同期で主務を担当していた白水康文君が、卒業して大手不動産会社に入社した1年目、会社のラグビー部の試合で、首の骨を折って(頸髄損傷)亡くなってしまいました。白水君の実家は福岡県春日市でお墓も実家の近くにあることから、定期的にクラブの仲間と福岡を訪れ、墓参りの後、中洲で白水君を忍ぶ会を開催しています。この件もあって、社会人になってからの私はラグビーを引退し、一ファンとして見る側にまわっています。

3. ラグビーのルール

ルールを全く知らないと、いくらW杯が日本で開催されていても、ラグビーを観て応援しようとはあまり思わないでしょう。ここで全てのルールを説明する訳にはいきませんので、最低限これだけは抑えておいてほしいことを記載したいと思います。これを知った上で、ラグビー観戦していただければ、フォ

ワードの迫力あるぶつかり合いや押し合い、バックスのスピードやキレのあるステップを見て、きっと興味を持っていただけるのではと期待します。

- ①簡単に言えば、1チーム15人の2チームで楕円形のボールを奪い合う陣取り合戦です(但しオリンピックでは7人制が採用されています)。後ろへパスしながら走ったり(前へのパスは反則)、キックしたり、味方と協力して押したりしながら、ボールを持って相手陣地(インゴール)へ攻め入ります。
- ②得点は、ボールを相手陣地に持ち込み地面に押さえる「トライ」が5点(相手の反則がなければトライだったと認められた場合の「ペナルティトライ」も5点)、その後の「コンバージョンゴール」が2点で最大7点。他に「ペナルティゴール」が3点で、滅多に見ることはできませんが「ドロップゴール」(通常のプレー中にドロップキックでゴール成功)が同じく3点となります。
- ③原則としてスターティングメンバーの背番号とポジションは一致しています。1番から8番の8人がフォワードで、スクラムを組んだりラインアウトを行ったり、主に密集でボールを奪い合うことが役割です。9番から15番の7人がバックスで、攻撃では密集から出たボールを持って走り、パスやキックをすること、守備ではタックルすることが主な役割です。尚、フォワードやバックスは総称でポジション(背番号)毎に名前や役割がありますが、長くなりますので今回は省略させていただきます。
- ④前後半のキックオフやトライ等の得点の後は、ハーフウェイラインからのドロップキックにより開始(再開)します。ボールを前に投げたり(スローフォワード)、前に落としたり(ノックオン)する軽微な反則や、密集からボールが出ない場合には、スクラムで再開します。また、キックやタックル等で、ボールがタッチラインから出た場合には、ラインアウトで再開します。危険なプレーや重い反則の場合はキック(ペナルティキックとフリーキックの2種類)で再開し、反則をした場所によってはペナルティゴールを狙うこともあります。ラフプレーや危険度の高いプレーがあった場合は、その度合いによりレッドカード(退場)やイエローカード(シンビン：10分間の一時的退場)が出されることもあります。
- ⑤ラグビーにもオフサイドの反則があります。ボールよりも前にいる選手はプレーに参加することができません。モールやラックの密集の場合は、ボールの後ろに回り込んで密集に入らなければなりません。キックの場合、前にいた選手は蹴った選手(またはその後ろにいた選手)に追い越されなければプレーできません。これらを破った場合はペナルティとなります。

4. 大きく変わったルール

ラグビーのルールは毎年のように見直しが行われています。ラグビー経験者であってもしばらく観ていないと、たまに「あれ？」と思うことがあります。ここで私が現役選手だった1980年代と現在の大きな違いについて、主なものを列挙させていただきます。



【ラインアウト】

出典：www.bing.com

項目	1980年代	現在
トライの得点	4点	5点
選手交代	ケガ等でプレー続行不能になった場合のみ交代可能	戦術的な交代の他、出血等の場合は一時的な交代も認められる
シンビン	なし	10分間の一時的退場
ラインアウト①	リフトは反則	リフトはOK
ラインアウト②	タッチラインからボールを（蹴り）出したら、相手ボールのラインアウトとなる	ペナルティキックの場合は蹴り出した方が投げ入れるラインアウトとなる（それ以外は不変）

1980年代はトライ+ゴールで最大6点=ペナルティゴール3点×2回であり、ペナルティゴールを狙うケースが多かったと思いますが、トライの得点が増えたことから、トライ+ゴールで最大7点>ペナルティゴール3点×2回となり、よりトライを狙うようになったと感じています。更にラインアウトのルール変更により攻撃側に有利になったことから、得点シーンが増えたと思います。その結果、ラグビーの面白さが深まっていると思います。

また、以前は簡単に選手交代ができなかったため、倒れた選手にやかんの水をかけて回復させるという、いわゆる「魔法のやかん」がラグビーの代名詞みたいになっていましたが、これは脳震盪や出血したままプレーを続行させると後々大きなダメージとなる可能性があることから、現在では安全面を考慮し、選手交代やドクターチェックのための一時的な交代が認められるようになっていきます。更に危険なプレーを抑止すべく、シンビンが取り入れられています。

5. 日本代表における外国人選手

近年の日本代表は外国人選手が多数選出されており、不思議に思っている方も多いと思います。これはラグビーの公式ルールにおける代表資格が、サッカーやオリンピックとは異なり、国籍を持っていなくても、以下の条件をクリアすれば代表資格を得ることができること、更に人数制限もないことが要因です。

前提条件	①	他国の代表選手になっていないこと
②～④のうち、いずれかの条件を満たしていること	②	出生地が当該国
	③	両親または祖父母のうち一人が当該国出身
	④	当該国に3年以上継続して居住している

外国人選手が多いことから、ラグビー日本代表の応援には力が入らないという方もいるかもしれませんが、多くの外国人選手が、高校・大学・社会人(トップリーグ)のチームにて3年以上プレーすることで、日本全体のレベルが上がっていることは間違いなく、各選手とも日本代表としてのプライドを持って対戦相手に立ち向かってくれると信じて、応援していただければと思います。

6. ラグビーと木材

ラグビーにおける木材の使用についても触れておきたいと思います。野球のバットのようにラグビーの試合で木材が使われることはありませんが、練習用具で木材が使われているものがあります。それがスクラムマシンと呼ばれるものです。スクラムは8人のフォワード同士で組みますが、その優劣が勝敗のカギになることも多く、非常に重要なセットプレーとして私自身もハードな練習を行ってきました。そ



【スクラムマシン】

出典：www.shinko-sports.co.jp



【スクラムマシンでの練習】

出典：www.bing.com

のスクラムを強化する目的で作られたのがスクラムマシンです。現在では金属製やハイテクなものもあるようですが、当時は木製が一般的でした。このスクラムマシンに何人か人を乗せて、とにかく何度も何メートルも「押す」という原始的なものです。高校時代にこの練習でスクラムが強くなったのも事実です。



【日本代表ニュージャージ】

出典：www.goldwin.co.jp

7. 最後に

この寄稿を読んで、少しでもラグビーに興味を持っていただき、W杯での日本代表の応援をしていただければ、うれしいです。私も日本代表戦を会場で生観戦したかったのですが、残念ながらチケットを入手することができませんでしたので、テレビで応援したいと思います。但し、イングランドVSフランス(横浜)のチケットを入手できましたので、強豪国同士の戦いを生で観て、W杯の雰囲気を感じたいと思っています。

日本代表戦 日程	開始時刻	対戦カード	会場
9月20日(金)	19:45	日本 VS ロシア	東京スタジアム
9月28日(土)	16:15	日本 VS アイルランド	エコパスタジアム
10月5日(土)	19:30	日本 VS サモア	豊田スタジアム
10月13日(日)	19:45	日本 VS スコットランド	横浜国際総合競技場